

E1A 新東名高速道路(海老名南JCT～御殿場JCT間)連絡調整会議
(第2回)

説明資料

2018年3月20日

(1) EIA 新東名高速道路の概要について

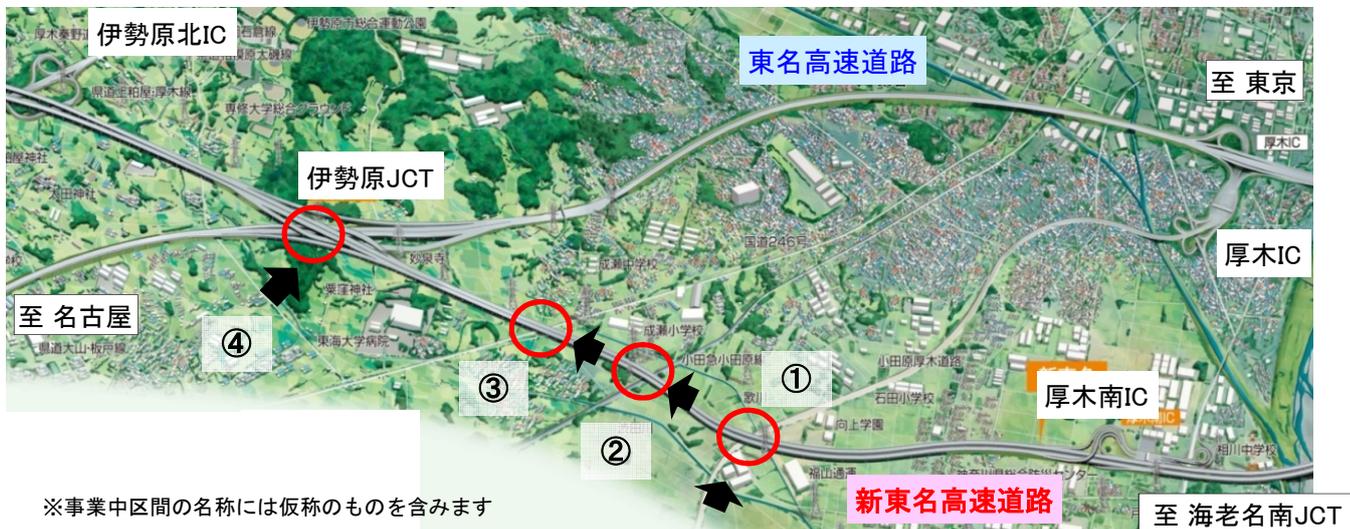
- 事業中区間は、厚木南IC～御殿場JCT間で全延長で52km
- 海老名南JCT～厚木南IC間2kmは、2018年1月28日に開通済み
- 用地は一部の箇所を除き概ね取得済みで、用地取得や埋蔵文化財調査等が完了した箇所から順次工事に着手
- 路線の特徴は、トンネル区間が約4割、橋梁区間が約4割と構造物比率が高い。特に山北町や松田町域では急峻な山岳地形の中で大規模な橋梁やトンネルを有するなかで工事を進めている



(2) 厚木南IC～伊勢原北IC間の工事進捗と工程精査結果について

■幹線道路や鉄道を横断して架設する橋梁が複数あることから、道路交通への影響や安全に十分配慮して進める必要がある中で、小田原厚木道路上(歌川橋)、国道246号上(下糟屋第三高架橋)、東名高速道路上(南三間橋)の架設工事が完了

<位置図>



※事業中区間の名称には仮称のものを含まます



① 新東名と小田原厚木道路との交差箇所の整備状況 (2018年2月撮影)



② 新東名と小田急小田原線との交差箇所の整備状況 (2018年2月撮影)



③ 新東名と国道246号との交差箇所の整備状況 (2018年2月撮影)



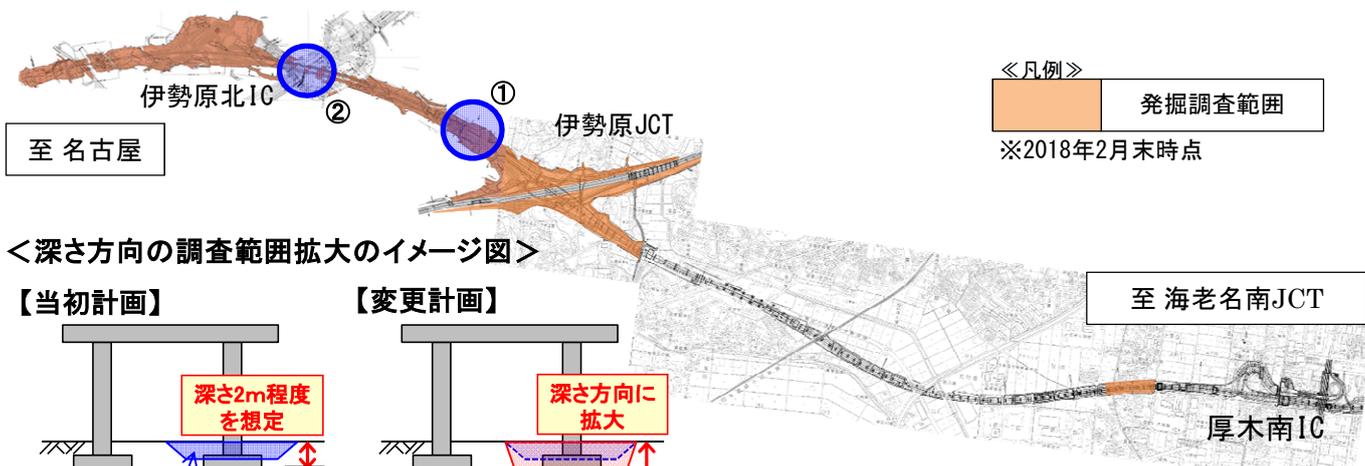
④ 新東名と東名上との交差箇所の整備状況 (2018年2月撮影)

■厚木南IC～伊勢原北IC間の埋蔵文化財発掘調査面積は、さがみ縦貫道路と比べ、約4倍の面積※であり、非常に大きい

※茅ヶ崎JCT～東京・神奈川県境間の1kmあたりの発掘調査面積比較

■埋蔵文化財の調査において、旧石器時代の遺跡が確認されるなど、深さ方向に調査範囲が拡大したため、2018年1月末に本線に係る調査が完了

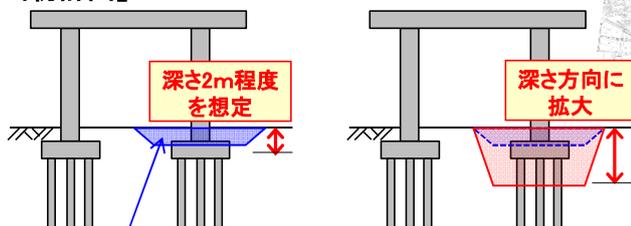
<埋蔵文化財調査範囲>



<深さ方向の調査範囲拡大のイメージ図>

【当初計画】

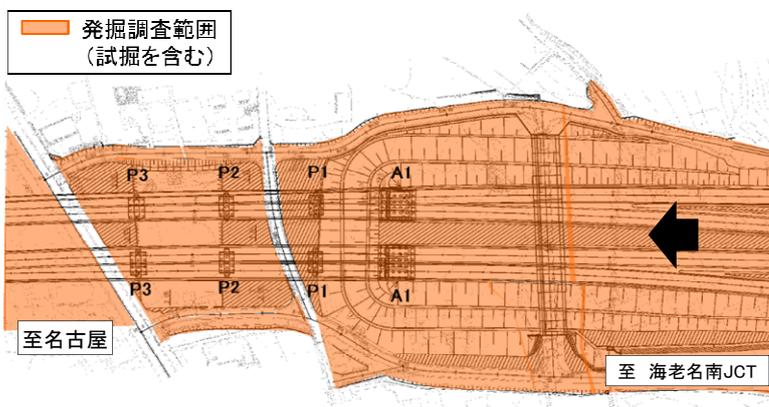
【変更計画】



埋蔵文化財調査範囲

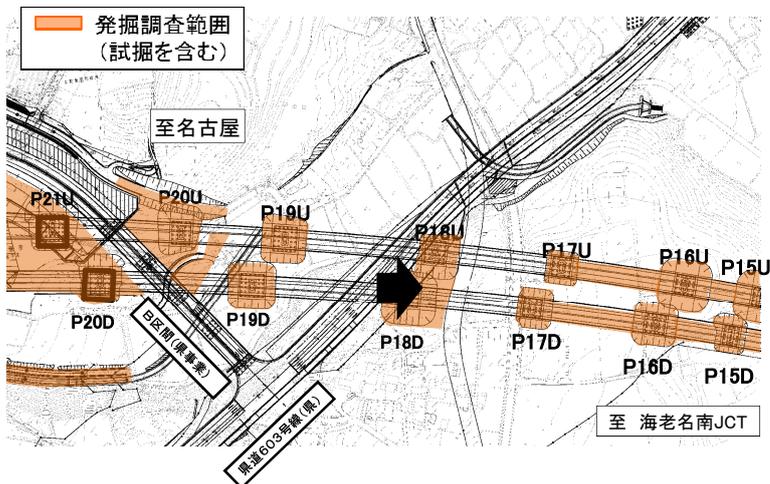
※事業中区間の名称には仮称のものを含まず

<①向畑高架橋付近の整備状況>



向畑高架橋付近の整備状況 (2018年3月撮影)

<②秋山高架橋付近の整備状況>



秋山高架橋付近の整備状況 (2018年3月撮影)

○工程精査結果について

- 厚木南IC～伊勢原JCT間は、当初予定通り2018年度の開通を目指し、今後、土工・橋梁工事が完了した箇所から舗装・設備工事を実施する
- 伊勢原JCT～伊勢原北IC間の開通予定は、2019年度に見直し、引き続き、土工・橋梁工事等を推進する



(3) 伊勢原北IC～御殿場JCT間の工事進捗について

■ 用地取得の難航、工食用進入路の確保難航、膨大な量の埋蔵文化財調査など、厳しい条件の中で工事を進めている



○ 工食用進入路の整備状況



松田町域 中津川工食用進入路
(2018年2月撮影)



山北町域 向原工食用進入路
(2018年2月撮影)

○本線の整備状況



※事業中区間の名称には仮称のものを含まます



① 秦野市域 葛葉川橋付近の整備状況 (2018年2月撮影)



② 秦野市域 秦野SA(仮称)の整備状況 (2018年2月撮影)



③ 山北町域の整備状況 (2018年2月撮影)



④ 御殿場市域 御殿場JCT付近の整備状況 (2018年2月撮影)

